

# HPVワクチンの現状とヘルスリテラシー

看護情報学 6月22日（木）

看護学研究科公衆衛生看護学上級実践コース1年

23MN009 片田早咲



# 目次

1. 子宮頸がんとはHPVワクチンとは
2. 日本のHPVワクチンの現状
3. 世界のHPVワクチンの現状
4. 「接種する・しない」意思決定のためには

# 1,子宮頸がんとHPVワクチン

- 子宮頸がんは**HPVワクチン**と**検診**によって予防できるがん
- HPVワクチンは、HPV感染、子宮頸がん前がん病変、子宮頸がんに対して高い予防効果があり、この効果は接種時の年齢が上がるほど弱くなる
- **世界的には2007年から接種開始**
- **日本では2013年4月**から予防接種法に基づきHPVワクチンは定期接種化され、公費で接種可能となったものの、接種後の疼痛や運動障害など多様な症状が報告され、2ヶ月後には積極的勧奨の差し控えとなり、2019年には接種率1%未満まで低下した

## 2,日本のHPVワクチンの現状



出典：Nakagawa S, Ueda Y, Yagi A, et al.  
Corrected human papillomavirus vaccination rates for each birth fiscal year in Japan. Cancer Sci. 2020;111(6):2156-2162.

生まれ年度ごとのHPVワクチン接種率  
(地域保険・健康増進事業報告及び国勢調査から算出)

## 2,日本のHPVワクチンの現状

- HPVワクチンは、2013年から2021年まで積極的勧奨が控えられていたが、**2022年4月から積極的勧奨が本格的に再開された**
- 2022年度から3年間の時限付きであるが、17～25歳のHPVワクチンの定期接種を逃した女性に対する無料でのキャッチアップ接種も開始



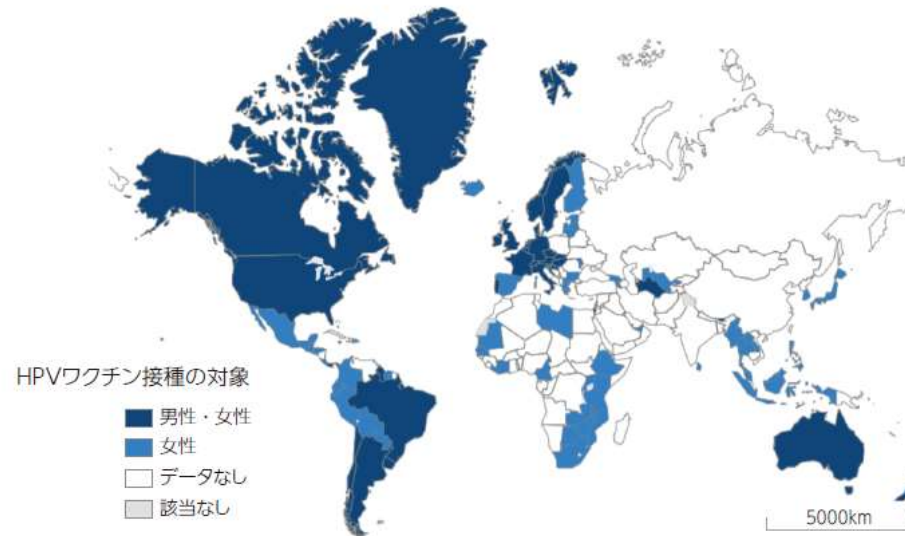
【小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ】  
厚生労働省よりリーフレット発行



# 3,世界のHPVワクチンの現状

- 124カ国で公的接種を行っている  
(2022年11月時点)  
→年々増加している
- アフリカや東南アジアの開発途上国でも接種が進んでいる

図3.5.3 世界におけるHPVワクチン接種プログラムの対象



Disclaimer

The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.



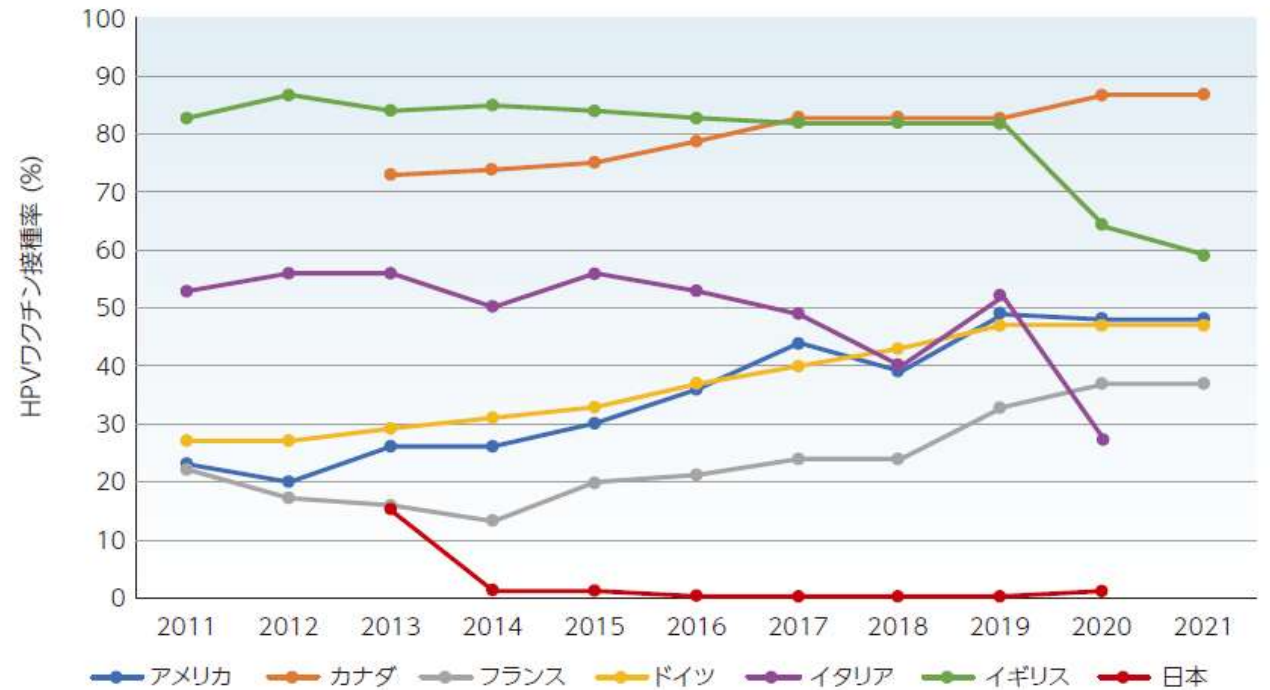
出典：WHOデータ(国家HPVワクチン接種プログラムの対象性別)

<https://app.powerbi.com/view?r=eyJrjoiNDlxZTFkZGUtMDQ1Ny00MDZkLThiZDktYWFyYTkOGU2NDcwiwidCI6ImY2MTBjMG13LWJkMjQtNGl3OS04MTBILTnkYzI4MGFmYjU5MCIsmMiojh9>

# 3,世界のHPVワクチンの現状

- 先進国においても接種率が高いとは言えない国が多い
- 90%接種率を達成している国はウズベキスタン、トルクメニスタン、アイスランド、ノルウェーのみ
- **半数近くの国では50%を下回っている**
- しかしその中でも日本の接種率は著しく低い

図3.5.2 G7のメンバー国におけるHPVワクチン接種率の推移



出典：WHOデータ(HPVワクチン接種を完了した女性の割合)

<https://app.powerbi.com/view?r=eyJrljoiNDIxZTFkZGUtMDQ1Ny00MDZkLThiZDktYWFIYTdkOGU2NDcwliwidCI6ImY2MTBjMGI3LWJkMjQtNGIzOS04MTBiLTNkYzI4MGFmYjU5MCIslmMiOjh9> より抜粋作成

# 3,世界のHPVワクチンの現状

- **WHO**：2018年に「**Cervical Cancer Elimination**」を立ち上げ、子宮頸がん排除のための行動を呼びかけた。世界中の女性に対し、一次予防としてのHPVワクチン接種と性教育、二次予防としての検診、三次予防としてのがん治療を対策としてあげた。
- **SDGs2030**の項目として、子宮頸がんの死亡率を30%減らすことをゴールとして掲げた。そのためには90%の少女が15歳までにHPVワクチンを接種することが目標に含まれる。
- イギリスやオーストラリアでは、**公費の予防接種プログラムとして男児にHPVワクチン接種を実施**。これらの国ではHPV 16/18型の感染率が低下している。



## 4, 「接種する・しない」意思決定のためには

- 健康教育の一環として、子宮頸がんはワクチンによって予防できるがんであることを学校で学ぶ機会を確保
- 「がん教育推進のための教材（文部科学省）」改定されHPVワクチンの記載盛り込まれた（2021年3月）
- HPVワクチン接種後に報告された有害事象に関するその後の調査結果を、一般の人でもわかりやすく示す
  - 健康被害が起こった時の医療体制が、より強固になったことをわかりやすく示す
  - **接種する本人・保護者が情報を正しく理解し意思決定するためには、両者共にヘルスリテラシーが必要**

# 参考文献・資料

- 1) 岡田賢司ほか：感染症・予防接種レター（第97号）HPVワクチンの現状． 小児保健研究（0037-4113）82巻2号． P211-213.
- 2) 川名敬：【子宮頸がんをめぐって】子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）の現状と課題． 臨床検査（0485-1420）67巻3号． P216-222.
- 3) 厚生労働省 ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がんとHPVワクチン  
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>（2023年6月16日閲覧）
- 4) 国立がん研究センター 子宮頸がんとその他のヒトパピローマウイルス（HPV）関連がんの予防ファクトシート 2023年公開  
[https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr\\_release/2023/0602/index.html](https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2023/0602/index.html)（2023年6月16日閲覧）



ご清聴ありがとうございました



# 質疑・感想・中山先生から頂いたコメント

- ちょうど友人とHPVワクチンを受けるかどうか話をした所だったので、タイムリーな話題であった。この発表の内容だけでなく、自分でも情報収集し接種するかどうかを検討することが大事だと感じた。
- 接種率が9割を超えている国はどのような方法を取っているのか？（制度や施策など）
- 接種率を上げるのであれば接種を義務化してしまうのが一番容易な方法である。接種率が9割を超えている国のうち、ウズベキスタンやトルクメニスタンは国の方針が強いのではないか。一方アイスランドやノルウェーなど北欧は、政府と国民で対話ができおり、それぞれの意向が反映されているのではないか。